

道徳学習指導案

日 時 平成17年6月9日(木)5校時
生徒 3年A組 男子11名 女子12名
指導者 教諭 宮本 元仁

1, 主題名 「いのち」

2, 内容項目 3-(2) 自他の生命を尊重し合う。

3, 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値項目について

ローティーンからミドルティーンの子たちは知識として命は失うと2度と復活することができないことをわかってはいるが、そのことを実感する機会が少ない。現在、全国的に少年犯罪が多発し社会問題となっている。これは死んでしまったものが簡単に生き返ってしまう、あるいは形を変えて復活するといったTVゲーム、映画、TV番組及び新興宗教等が青少年に悪影響を与えているものと考えられる。言い換えれば生命に関して現実と仮想の世界の区別が付きにくくなっている子どもが多くなっているのではないかということである。そこで本授業では資料を通して、あるいは自他の考えにふれることによって、生命の尊さや重さについて、あらためて考えさせたいと考え、本主題を設定した。

(2)生徒の実態

研究授業としての道徳の授業は3回目となる。これまでの学級担任が行ってきた授業では、与えられて命題についてよく考えて参加している様子が見られた。今回はモラルディレンマを用いて、命についてよく考え、本音がたくさん出てくることを期待したい。

(3)研究仮説との関わり

①教材や資料の工夫

生徒の心を揺さぶるために、二者択一を迫るモラルディレンマ資料を採用した。どちらの行動をとるべきなのかを考えさせながら、「いのち」に対する認識を深めさせたい。

②評価の工夫

ワークシートに書かれた判断や感想を授業中や授業後に交流することによって、各生徒の視野を広げさせるとともに、自己理解や相互理解にもつなげていきたい。

4, 資料 平成15年度後教研道徳研究大会公開授業指導案(島牧中)より

5, 本時の目標 生命の尊さについて認識を深める。

6. 展開

	教師の関わり	生徒の活動	留意事項
導入	本時テーマの確認 「いのち」板書		(5分)
展開	資料配付・範読 要点確認（黒板に提示） 発問①「あなたが隊長だったら、救助を続けますか、それとも打ち切りますか。」 ワークシート配付 指示 ワークシートへの記入 ネームプレート貼り付け 理由を発表させる。 発問②「もう一度考えてみましょう 救助を継続しますか、打ち切りますか。」 指示 ワークシートへの記入 ネームプレート貼り替え	範読を聞きながら、要点をつかむ。 どちらかの選択肢を選び、理由も記入する。 両派それぞれの理由を発表する。 再考し、考えや理由の変わった生徒は発表する。	内容理解のために補足説明を行う。 挙手発表させたい。 他の意見を聞いた上での再判断をさせる。 (35分)
終末	説話 登山者の心得 指示 感想記入	感想をワークシートに記入する。 感想発表。	挙手発表 (10分)

7. 評価 生命の尊さについて認識を深めることができたか。

8. 板書計画

いのち	隊長として どう判断しますか 継続 中止
白石隊員はクレバスの奥深くに 夕闇が迫り、あせりの色	
↑	
救助隊員も危険に	

9. 資料 「氷河上の決断」

1997年6月、旭川山岳登山隊はボゴダ峰登頂を目指して、アタックを開始した。ボゴダ峰は大変険しい上に氷河で覆われており、簡単には登ることができない山である。そこでベースキャンプを起点に、第1キャンプ、第2キャンプと少しずつ荷物をあげながら、前進していくのである。

事故が発生したのは6月10日午前11時20分のことであった。白石ミツ子隊員(29歳・独身)が氷河上でクレバスに転落したのである。直ちに緊急連絡が発せられ、第2キャンプから出動した救急隊員は13時10分に現場に到着した。白石隊員の生存が確認され、すぐに山村隊長をはじめ各隊員が交代でクレバスへの下降を試みた。

しかしクレバスの入り口は幅が80cmぐらいで、人間がやっと一人通れる程度の大きさしかない上に、中に入るにしたがってさらに狭くなり、上から4mくらい降りたところで屈曲していた。

「大丈夫かあ。」と声をかけると応答はある。しかし、まだはるか下の方である。ザイルの先にヘッドランプを付けて下に降ろしたりするのだが、彼女自身どうにもザイルをつかむことができないのか、そのままむなしくランプだけが上がってくる。

「しっかりしろ！」大声で彼女を励ましながら懸命の作業を続けるのだが、どうしても救出できない。時間だけがどんどん過ぎていく。夕闇が迫り、みんなの顔に焦りの色が浮かんできた。その時、クレバスの中から彼女の叫ぶような声が聞こえた。

「みんなー。わたし、ここで死ぬからあー！」

「みんなには奥さんも子どももいるんだからあー。危ないからあー。もういいよおー。」

声が聞こえているのに助けられない。悔しさが全身を貫く。しかしこのまま作業を続けることは、救助隊員にも危険をもたらすことになるのである。

各隊員は山村隊長の顔を見た。隊長はこのまま救助活動を続けるべきなのか、続けるべきではないのか、大きな苦悩の中にいた。

※ クレバス 氷河等にある深い割れ目のこと。数十m～数百mに達することもある。

※ ザイル 登山の時に身体に結びつけて使う丈夫なロープ。

名前

- (1) あなたが隊長だったら、救助活動を続けますか、それとも中止しますか。
どちらかを選び、その理由を下に書いて下さい。

継続

中止

なぜ？

名前

- (2) もう一度、たずねます。よく考えて答えて下さい。あなたは隊長として隊員に救助の
継続を命じますか、それとも中止を命じますか。

継続

中止

なぜ？

名前

- (3) 今日、友だちの考えを聞いたり、授業を受けてみて、どんなことを感じたり、
考えたりしましたか。